

## 越前市岩本町におけるナガサキアゲハ幼虫の採集記録

梅村信哉<sup>1</sup>・藤本尚子<sup>2</sup>

要旨：越前市岩本町で2023年10月14日にナガサキアゲハの幼虫2個体が採集された。

キーワード：ナガサキアゲハ，福井県，嶺北地方

**Shinya UMEMURA<sup>\*1</sup>・Takako FIJIMOTO<sup>2</sup>. 2024. A record of the larvae of *Papilio memnon* Linnaeus at Iwamoto-cho, Echizen City, Fukui Prefecture. Ciconia (Bulletin of Fukui Nature Conservation Center) 27:59-60.**

Two individuals of the larvae of *Papilio memnon* Linnaeus were caught at Iwamoto-cho, Echizen City, Fukui Prefecture on 14<sup>th</sup> October, 2023.

**Key words:** *Papilio memnon* Linnaeus, Fukui Prefecture, Reihoku area

ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus は、開張 90~120mm ほどで、日本最大級のアゲハチョウの一種である。本種はマレーシア、インドネシアなどの東南アジアの熱帯地域から、中国南部、台湾、日本などの東アジアの温帯地域にまで広く分布する南方系の種であり、日本は分布の北限にあたる(福田ほか 1982)。本種は、かつて国内では南西諸島と九州、四国南部や山口県などに分布するのみであったが(福田ほか 1982；日本チョウ類保全協会 2019)、1980年代から近畿地方で記録が増えはじめ(白水 2006)、2000年頃までには東海・関東地方南部にも侵入・定着した(吉尾・石井 2010)。本種の分布拡大の原因は、地球温暖化であることが確かめられている(吉尾 2010)。

福井県においては、1993年に若狭町切迫において採集されたのが初記録である(下野谷 1993)。その後、敦賀市、小浜市やおおい町で採集され(和田 1999, 2000, 2001)、敦賀市中池見や高浜町音海でも観察されている(下野谷 2003；ウェットランド中池見 2016)。嶺南地方では、春型の成虫が採集されたことなどを根拠に、本種が定着したことが報告された(下野谷 2000, 2003)が、その後はなかなか北上せず、2016年時点での本種の日本海側における分布北限は敦賀市北部から南越前町南部付近とされている(木村 2014；松井 2016)。その後、県内におけるナガサキアゲハに関する報告は見当たらないが、2023年に越前市内で本種の幼虫が採集されたので、下記の通り報告する。

ナガサキアゲハ *Papilio memnon* Linnaeus

越前市岩本町, 2exs., 14-X-2023, 藤本尚子採集(写真 1-A)



写真 1 ナガサキアゲハ幼虫 (A) と蛹 (B)

A: 14-X-2023, 越前市寺本町, 藤本尚子採集・梅村信哉撮影。

B: 福井市自然史博物館での飼育により蛹化したナガサキアゲハ。

6-XII-2023, 福井市自然史博物館, 梅村信哉撮影。

第二著者の藤本が越前市岩本町の知人宅のユズについている本種の幼虫を採集し、福井市自然史博物館学芸員の出口翔大氏を通して第一著者の梅村に届けられた。幼虫は福井市自然史博物館でその後も飼育し、蛹になった(写真 1-B)。このうち、1個体は記録のために冷凍殺傷し、乾燥標本として福井市自然史博物館に収蔵したが (FCMNH-JI35290)、もう1個体は同館で飼育を継続中であり、成虫が羽化するかが注目される。

1 福井市自然史博物館 〒918-8006 福井県福井市足羽上町 147

2 日本野鳥の会福井県



写真 2 福井市自然史博物館に寄贈されたナガサキアゲハのメスの標本。  
4-X-2017, 坂井市丸岡町楽間 県総合グリーンセンター, 星野誠司採集(幼虫)および飼育・福井市自然史博物館所蔵 (FCMNH-J135299)

本種は石川県では 1970~90 年代までは確認されておらず, 2001 年に加賀市山中町で採集され, 2010 年代には観察数が増えているという(松井 2016)。福井県の嶺北地方では坂井市丸岡町楽間の県総合グリーンセンター内で成虫が観察されているとの情報があり(小林しのぶ 私信), 星野誠司氏が 2017 年 10 月 4 日に同地で幼虫を採集し, 室内飼育して翌 2018 年 4 月 27 日に羽化したメス個体の標本が福井市自然史博物館に寄贈された(写真 2)。星野氏によると, 2017 年 9 月 3 日と 5 日には, 県総合グリーンセンター内のハッサクの木周辺で多数のナガサキアゲハの成虫が観察され, 9 月 12 日にはハッサクの枝やひこばえへの産卵が確認されたとのことである。春型の成虫が観察されれば, その地での定着の一つの根拠と考えることができるため(下野谷 2003), 今回の採集地周辺を含めて嶺北地方において, 春季に本種の発生に注視する必要がある。

本稿を取りまとめるにあたり, 第二著者から第一著者へのナガサキアゲハ幼虫の受け渡しの仲介をいただいた福井市自然史博物館学芸員の出口翔大博士と, 坂井市丸岡町楽間の県総合グリーンセンター内において採集したナガサキアゲハの標本を福井市自然史博物館にご寄贈いただくとともに, 観察情報をご教示いただいた星野誠司氏, 同地におけるナガサキアゲハの観察情報をご教示いただくとともに, 筆者と星野氏の仲介をいただいた小林しのぶ氏に心より御礼申し上げます。また, 本稿の投稿にあたり様々な便宜を図って下さった福井県自然保護センターの五十川祥代氏にも御礼申し上げます次第である。

## 引用文献

- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之. 1982. 原色日本蝶類生態図鑑 (I). 保育社, 大阪.
- 木村富至. 2014. 福井県産蝶類の話題種と分布考察. *Butterflies (S. fujisanus)* (64): 4-12.
- 松井正人. 2016. 石川県におけるチョウの分布拡大. 井上大成・石井 実(編), *チョウの分布拡大*. 北隆館, 東京. pp. 231-242.
- 日本チョウ類保全協会(編). 2019. フィールドガイド 増補改訂版 日本のチョウ. 誠文堂新光社, 東京.
- 下野谷豊一. 1993. 福井県三方郡三方町で見つかったナガサキアゲハ. 福井市自然史博物館研究報告 (40): P90.
- 下野谷豊一. 2000. ナガサキアゲハの福井県への侵入. *昆虫と自然* 35(4): 18-22.
- 下野谷豊一. 2003. 福井県に定着したナガサキアゲハとその後の経過. 福井市自然史博物館研究報告 (50): 65-66.
- 白水 隆. 2006. 日本産蝶類標準図鑑. 学研教育出版, 東京.
- 和田茂樹. 1999. 1999 年の福井県嶺南地方におけるナガサキアゲハの記録. 福井市自然史博物館研究報告 (46): 127-128.
- 和田茂樹. 2000. 福井県大飯町で再びナガサキアゲハを採集. 福井市自然史博物館研究報告 (47): P68.
- 和田茂樹. 2001. 福井県におけるナガサキアゲハとシマゲンゴロウの記録. 福井市自然史博物館研究報告 (48): 75-76.
- ウェットランド中池見. 2016. 中池見湿地のチョウ—観察ガイドブック—. ウェットランド中池見, 敦賀市.
- 吉尾政信. 2010. 気候温暖化によるチョウ類の分布拡大と絶滅のリスク. 石井 実(監修), *日本の昆虫の衰亡と保護*. 北隆館, 東京. pp. 204-213.
- 吉尾政信・石井 実. 2010. 気候温暖化とナガサキアゲハの分布拡大. 桐谷圭治・湯川淳一(編), *地球温暖化と昆虫*. 全国農村教育協会, 東京. pp.54-71.